

# 鹿沼市水道ビジョン（概要版）

平成30年 3月 鹿沼市 水道部

水道事業では、人口減少や社会構造の変化により、今後は水需要の減少がより一層進む事が予想される中で、多くの老朽化施設の更新を抱えており、効率的な事業の運営が求められています。

本市では、水道事業者として求められている責務や役割を十分に認識し、将来のあるべき姿や当面の目標を明らかにするため、鹿沼市水道ビジョンを策定しました。

## 1 施策体系

基本理念：いつでも いつまでもおいしい水 かぬま			
視点	課題	基本目標	実現方策と期待される効果
安全	・取水量の不足	安全で安定した水道水の供給	① 安定した水源の確保 →水道水の安定供給
	・クリプトスポリジウム対策		② 浄水施設の整備と安全性の向上 →水質基準の遵守、水道水の安全性向上
	・未普及地域の整備		③ 給水区域の拡張 →飲料水や生活用水の安全の確保
強靱	・水道施設の耐震化	災害に強い施設整備と災害への備え	① 耐震化の推進 →地震に強い施設の構築
	・迅速な復旧体制		② 災害復旧体制の充実 →災害からの迅速な復旧
持続	・水道施設の更新	計画的な施設更新と健全な財政の維持	① 水道施設の計画的な更新 →施設の健全性の向上
	・アセットマネジメントの実践		② アセットマネジメントのレベルの向上 →資産管理のレベルアップ
	・給水人口及び給水量の減少		③ 料金制度の最適化 →健全な水道事業経営の維持
	・人材育成、官民連携と広域化		④ 技術レベルの維持と官民連携や広域化の検討 →時代に合った組織体制の確立
	・専用水道や小規模水道等への対策		⑤ 専用水道や小規模水道等に対する取組み →飲料水や生活用水の安全の確保
	・漏水及び漏水が原因となる事故		⑥ 漏水対策の実施 →管路の健全性の維持と事故防止
向上	・水道に関する情報の提供	サービス水準の向上と環境への配慮	① 情報提供の充実 →加入の促進と水道事業に対する理解の向上
	・水道料金の支払い方法		② 料金支払い方法の充実 →利用者へのサービスの向上
	・省エネルギー対策		③ 省エネルギーの推進 →地球温暖化対策、コスト縮減

## 2 事業化計画

### (1) 設定期間

当面の目標を、平成30年度から39年度までの10年間とし、併せてこれ以降の将来像（理想像）を示すものとします。

### (2) スケジュール

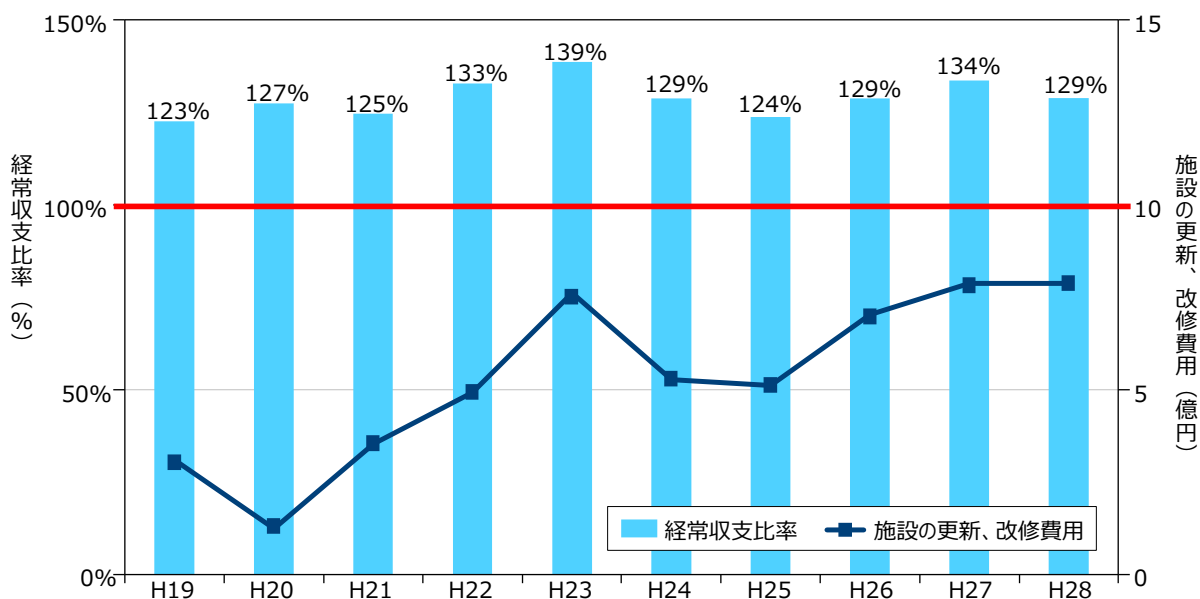
施設整備では、紫外線処理施設の整備、第1浄水場の更新を前半に実施し、併せて施設の耐震化を進めていきます。

老朽管の更新は、費用を抑えるため、これまでの管理実績から管種ごとに耐用年数を設定し、更新を進めます。

視点	実現方策	予定事業	時期		
			前半 H30~34	後半 H35~39	設定期間 以降
安全	安定した水源の確保	新たな水源の確保と活用	■	■	
		水源の改修		■	
		多系統化・複数化への取り組み		継続実施	
		水源涵養への取り組み		継続実施	
		広域的給水の検討		継続実施	
	浄水施設の整備と安全性の向上	浄水施設の整備・改修	■		
		水質基準の遵守、安全性の向上		継続実施	
		水安全計画の策定	■		
	給水区域の拡張	給水区域の拡張		継続実施	
		飲料水や生活用水の安全の確保		継続実施	
強靱	耐震化の推進	浄水・配水施設の耐震化	■	■	~H41
		管路の耐震化		継続実施	
	災害復旧体制の充実	迅速な復旧を可能とする体制作り		継続実施	
持続	水道施設の計画的な更新	老朽管路の更新		継続実施	
		第1浄水場の更新	■		
	アセットマネジメントのレベルの向上	アセットマネジメントの公開	■	(以後、継続実施)	
		資産台帳の充実	■		
	料金制度の最適化	適正な料金水準の設定	■	(以後、継続実施)	
		コスト縮減への取り組み		継続実施	
	技術レベルの維持と	時代に合った組織体制の確立		継続実施	
	官民連携や広域化の検討	委託方式や広域化の検討		継続実施	
	専用水道や小規模水道等に対する取り組み	適正な指導		継続実施	
		上水道加入、施設受け入れの検討		継続実施	
漏水対策の実施	対策の維持		継続実施		
向上	情報提供の充実	内容の充実と方法の検討	■	(以後、継続実施)	
	料金支払い方法の充実	支払い方法拡充の検討	■		
	省エネルギーの推進	効率の優れた機器への更新		継続実施	
		再生可能エネルギーの利用検討		継続実施	

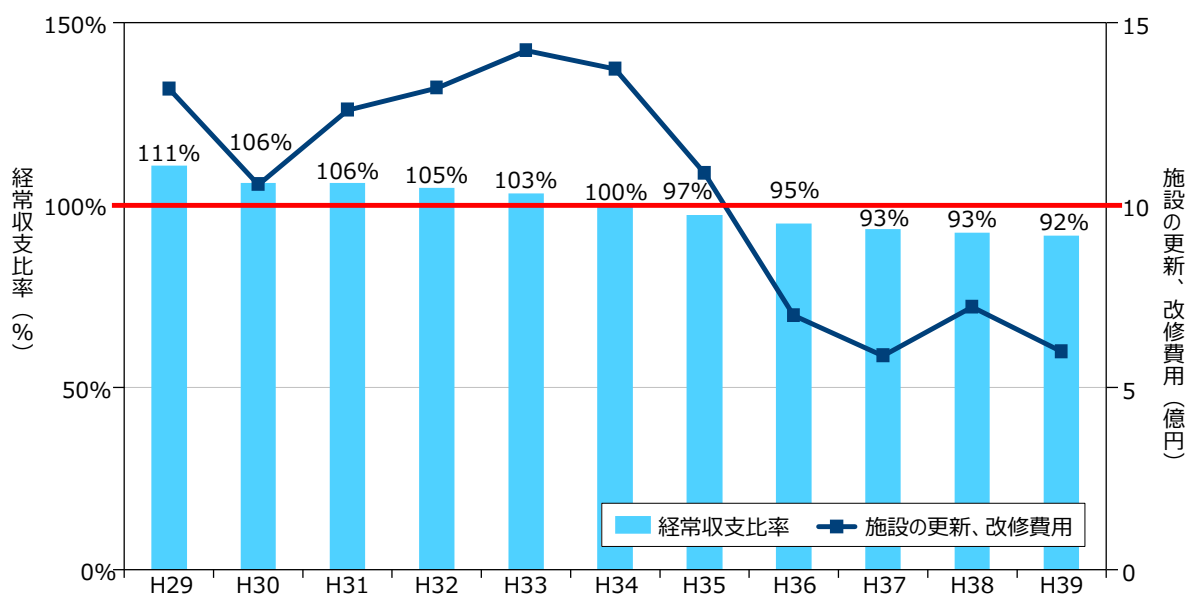
### 3 収支の見通し

本市の水道事業はこれまで、経常収支比率<sup>※</sup>が120%前後で推移しており、経営状態は非常に安定していました。



しかし今後は、大規模な施設の更新や改修が控えており、料金を据え置いたままにした場合、平成34年以降は赤字になる見通しです。

更新や改修を先送りし、後の世代の負担を増やすことが無いよう、経営状況をしっかりと把握しながら、適切な料金水準を維持していくことが必用です。



※：経常収支比率…水道事業に必要な費用が、料金などの収入でどの程度賄えているかを示す指標で、100%を上回っていれば、利益が生じているという事となります。

## 4 目標

視点	目標指標	現状	目標		
			前半 平成34年	後半 平成39年	設定期間 以降
安全	紫外線処理装置の整備	2施設	13施設 (全浄水場)	—	—
強靱	浄水施設の耐震化率	75.4%	95%	95%	平成41年度 100%
	配水池の耐震化率	41.1%	90%	93%	平成41年度 100%
	基幹管路の耐震適合率	25.3%	34%	42%	更に向上
持続	有効率	89.1%	89.7%	90%以上	90%以上 を維持
	有収率	79.4%	79.7%	80%以上	80%以上 を維持
	経常収支比率	129.0%	100%以上を維持		
向上	配水量1m <sup>3</sup> 当たり 電力消費量	0.46 kW/m <sup>3</sup>	現状より低減させること		

## 5 フォローアップ

PDCA サイクルに基づき、業務やサービス水準、経営状況等の推移を評価します。前半終了時に検証を行い、鹿沼市水道ビジョン全体の見直しを実施します。

